



平成30年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年3月6日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200
 四半期報告書提出予定日 平成30年3月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年4月期第3四半期の業績 (平成29年5月1日～平成30年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年4月期第3四半期	4,429	9.9	604	△7.0	611	△6.4	413	△7.0
29年4月期第3四半期	4,029	4.6	649	7.9	652	7.9	444	11.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
30年4月期第3四半期	24.64		24.55					
29年4月期第3四半期	26.54		26.41					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年4月期第3四半期	5,372	4,855	90.3
29年4月期	5,325	4,603	86.3

(参考) 自己資本 30年4月期第3四半期 4,851百万円 29年4月期 4,597百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年4月期	—	0.00	—	—	—
30年4月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年4月期の業績予想 (平成29年5月1日～平成30年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,696	4.7	771	△3.7	776	△3.6	541	△5.5	32.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料6ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年4月期3Q	17,464,000株	29年4月期	17,464,000株
30年4月期3Q	680,941株	29年4月期	717,741株
30年4月期3Q	16,768,281株	29年4月期3Q	16,737,298株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策の継続により、企業収益や雇用環境の改善が続き、全体的に緩やかな回復基調で推移しておりますが、各国の政策運営動向やアジアにおける地政学リスクの高まりなどにより海外経済は先行き懸念が払拭できない状況が続いております。

事業内容としては、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

(メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、主力である遺影写真加工収入は想定をやや下回りましたが、ハード機器は好調に推移し、エアリアルイメージング事業とのコラボ商品である「飛鳥焼香台」の売上も寄与いたしました。また、葬祭市場での豊富な顧客基盤を活用し、葬儀社と喪主と会葬者を繋ぐサービス「tsunagoo」のバージョンアップ開発を進めてまいりました。

利益面につきましては、画像処理部門の人件費が増加したことにより粗利益率が低下いたしました。また、第3四半期以降、発送配達費が想定以上の値上げにより増加し、サポート拠点を増加させたことから人件費や旅費交通費も増加いたしました。

その結果、売上高は1,865,125千円（前年同四半期比104.0%）、セグメント利益は545,087千円（前年同四半期比93.2%）となりました。

(パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真家向け市場では「アスカブック」、一般消費者向け市場では「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真をもとにフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、自社営業による新規顧客の獲得に加え、全国11か所でのセミナーやワークショップを開催し、顧客の囲い込みや新製品のプロモーションを行ってまいりました。その結果、プロフェッショナル写真家向け市場の売上は順調に推移しました。今後は、高評価サービスである「赤ちゃん等身大フォト」の拡販、浸透にも努めてまいります。

一般消費者向け市場では、効率的なネットでの広告宣伝に加え、各種キャンペーンの実施やSNSの活用、テンプレートやイラストの拡充などの施策を実施してまいりましたが、激しい競争環境のもと、新規顧客の獲得に苦戦し、一般消費者向け市場の売上は前年実績を下回りました。一方、OEM供給につきましては、サービスの浸透により、売上は順調に伸びました。また、今後の生産量増加に備え、予定通りOEM部門の設備投資を実施したほか、展示会「CP+」出展の準備も進めてまいりました。

利益面につきましては、発送配達費が想定以上の値上げにより増加したものの、稼働率の向上による粗利率の上昇により、セグメント利益は順調に増加いたしました。

その結果、売上高2,477,095千円（前年同四半期比113.0%）、セグメント利益は602,935千円（前年同四半期比122.0%）となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。従来、空中結像を可能にする当社独自技術のプレートにAIプレートと称しておりましたが、平成30年1月に海外ブランドと統一し、サービスブランドをASKA3D、プレート名をASKA3Dプレートといたしました。

当事業におきましては、空中結像を可能にするASKA3Dプレートの量産化を最重要課題として取り組んでおります。

ガラス製ASKA3Dプレートにつきましては、十分なコストダウンは図れていないものの、高品質の空中結像を可能にする大型プレートを供給しており、国内外の展示会へ出展したことにより、小ロットではありますが、サイネージや空中操作目的での販売が増加してきております。また、メモリアルデザインサービス事業とのコラボレーション企画である「飛鳥焼香台」向けのプレート供給も行っていました。

高い量産性と低コスト化を目指しています樹脂製ASKA3Dプレートにつきましては、その具体的な製造方法が確立しつつありますが、その過程において樹脂剥離工程での不具合など新たな問題に直面し、現在サンプルの完成が遅れております。しかしながら、これらは金型の改良や剥離方法の変更などで解決できると確信しており、改良が終わり次第、再度試作を行い、少しでも早くサンプル供給を実現したいと考えております。

マーケティング面につきましては、第2四半期までのシーテックなど国内2か所および米国など海外2か所での展示会出展に加え、第3四半期にはドバイでの展示会に出展いたしました。そのほか、ASKA3Dプレートを組み込んだATMを共同開発し国内外の展示会に参考出品しました。また、「変なホテル ハウステンボス」の受付などでの活用事例もありました。

費用面では、国内外の展示会に積極的に出展した結果、広告宣伝費が大きく増加しました。また、樹脂製ASKA3Dプレートの量産実現に向けて集中的に研究開発を行い、研究開発費が増加いたしました。そのほか、人員増強により人件費や、海外での旅費交通費、および特許関連費用も増加いたしました。

その結果、売上高は97,394千円（前年同四半期比221.6%）、セグメント損失は187,792千円（前年同四半期は91,774千円の損失）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は4,429,265千円（前年同四半期比109.9%）となりました。利益面につきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業においてセグメント利益が順調に増加したものの、全社的な発送配達費の増加やエアリアルイメージング事業における広告宣伝費や研究開発費の増加により、経常利益は611,086千円（前年同四半期比93.6%）、四半期純利益は413,182千円（前年同四半期比93.0%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ47,549千円増加し、5,372,796千円となりました。これは主に、現金及び預金が46,727千円減少した一方で、受取手形及び売掛金が94,021千円、有形固定資産が29,411千円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ204,160千円減少し、517,641千円となりました。これは主に、未払法人税等が64,470千円、賞与引当金が59,400千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ251,709千円増加し、4,855,154千円となりました。これは主に、四半期純利益を413,182千円計上した一方で、剰余金の配当による減少167,462千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月9日に発表いたしました平成30年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月30日)	当第3四半期会計期間 (平成30年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,278,251	2,231,523
受取手形及び売掛金	686,517	780,539
商品及び製品	166,123	179,448
仕掛品	12,038	14,387
原材料及び貯蔵品	56,972	56,209
その他	112,648	84,653
貸倒引当金	△3,163	△4,177
流動資産合計	3,309,387	3,342,584
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	499,750	505,865
機械及び装置(純額)	422,616	435,860
土地	432,702	432,702
その他(純額)	150,493	160,545
有形固定資産合計	1,505,562	1,534,974
無形固定資産	211,874	198,534
投資その他の資産	298,423	296,702
固定資産合計	2,015,859	2,030,211
資産合計	5,325,247	5,372,796
負債の部		
流動負債		
買掛金	118,905	109,208
未払法人税等	143,270	78,800
賞与引当金	129,000	69,600
その他	317,028	247,858
流動負債合計	708,204	505,467
固定負債		
退職給付引当金	6,482	6,482
その他	7,115	5,692
固定負債合計	13,597	12,174
負債合計	721,802	517,641
純資産の部		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	3,803,101	4,042,857
自己株式	△309,764	△293,882
株主資本合計	4,590,222	4,845,860
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,579	5,841
評価・換算差額等合計	7,579	5,841
新株予約権	5,642	3,452
純資産合計	4,603,444	4,855,154
負債純資産合計	5,325,247	5,372,796

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年5月1日 至平成30年1月31日)
売上高	4,029,111	4,429,265
売上原価	1,951,139	2,137,661
売上総利益	2,077,972	2,291,604
販売費及び一般管理費	1,428,573	1,687,396
営業利益	649,399	604,207
営業外収益		
受取利息	807	410
受取配当金	1,161	1,060
受取手数料	418	327
為替差益	51	141
保険金収入	—	3,999
その他	781	938
営業外収益合計	3,219	6,878
経常利益	652,619	611,086
特別損失		
固定資産除却損	103	15,174
特別損失合計	103	15,174
税引前四半期純利益	652,515	595,911
法人税等	208,258	182,728
四半期純利益	444,256	413,182

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,793,240	2,191,910	43,960	4,029,111	—	4,029,111
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,793,240	2,191,910	43,960	4,029,111	—	4,029,111
セグメント利益 又は損失(△)	584,951	494,151	△91,774	987,328	△337,928	649,399

(注) 1 セグメント利益の調整額△337,928千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自 平成29年5月1日 至 平成30年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,865,125	2,477,095	87,044	4,429,265	—	4,429,265
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	10,350	10,350	△10,350	—
計	1,865,125	2,477,095	97,394	4,439,615	△10,350	4,429,265
セグメント利益 又は損失(△)	545,087	602,935	△187,792	960,230	△356,022	604,207

(注) 1 セグメント利益の調整額△356,022千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに
帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。